



## 【戦評シート】

平成 28 年 7 月 18 日 (月)	協会名 :	秋田県 バスケットボール協会							
場 所 : CNA アリーナ★あきた	記入者 :	畠山 芳, 菊地一成							
チーム A 湯沢南	6 5	<table border="0"> <tr> <td rowspan="4" style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">}</td> <td>1 2 - 9</td> </tr> <tr> <td>2 0 - 1 3</td> </tr> <tr> <td>1 7 - 1 2</td> </tr> <tr> <td>1 6 - 2 0</td> </tr> </table>	}	1 2 - 9	2 0 - 1 3	1 7 - 1 2	1 6 - 2 0	5 4	チーム B 秋田東
}	1 2 - 9								
	2 0 - 1 3								
	1 7 - 1 2								
	1 6 - 2 0								

スターター	チーム A :	# 4, # 5, # 6, # 7, # 9
	チーム B :	# 4, # 7, # 8, # 11, # 12
ディフェンス (試合開始時)	チーム A :	<input checked="" type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )
	チーム B :	<input checked="" type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )

秋季, 春季に続き 3 大会連続優勝をねらう第 1 シードの湯沢南中学校と, 激戦ブロックを勝ち上がり勢いに乗る第 3 シードの秋田東中学校との対戦となった。

第 1Q, 秋田東 #11 中山が速攻からのゴール下を決め先制。湯沢南は #4 千葉が 3P を決める。その後両チームともシュートが決まらず重い立ち上がりとなる。湯沢南は 3P や速攻, ポストプレーで得点。秋田東はリバウンドシュート, ジャンプシュート, 1 対 1 で応戦する。一進一退の攻防の末, 12-9 の湯沢南リードで終了する。

第 2Q, 開始早々, 秋田東 #4 伊東の 3P で同点に追いつく。湯沢南は #7 佐藤がゴール下をすぐ入れ返す。残り 6 分 25 秒, 湯沢南前半 1 回目のタイムアウト。直後, 秋田東 #4 伊東がフリースローを決め同点に追いつき, アシストパスからのゴール下を #12 川辺が決め逆転。しかし, 湯沢南は #5 遠田がジャンプシュート, リバウンドシュート, #7 佐藤がリバウンドシュート, #5 遠田が 3P と連続得点し, 残り 3 分 2 秒, 秋田東 1 回目のタイムアウト。しかし流れは変わらず, 湯沢南は得点を伸ばし, 残り 1 分 47 秒, 32-18 となったところで秋田東は 2 回目のタイムアウトを請求する。その後, 秋田東は #11 川辺のジャンプシュート, #4 伊東のミドルシュートで追い上げるが, 32-22 と湯沢南が 10 点リードで前半を折り返す。

第 3Q, ファウルをもらった秋田東 #4 伊東がフリースローを 2 本, さらに 3P を決め点差を詰める。湯沢南は #5 遠田がミドルシュート, インターセプトからの速攻, #7 佐藤がゴール下, コンビネーションプレーなどスピードあるオフェンスで得点する。秋田東 #4 伊東のゴール下, ジャンプシュート, 速攻などで得点するがなかなか点差が詰まらない。49-34 の湯沢南 15 点リードで最終クォーターを迎えた。

第 4Q, 秋田東 #4 伊東を中心にオフェンスを展開し, 追い上げる。残り 4 分, 11 点差となったところで, 秋田東はオールコートディフェンスを試みるも, 湯沢南がリバウンドからの速攻などで応戦する。秋田東 #4 伊東の 5 本の 3P などに対し, 湯沢南は速い展開からのゴール下への合わせのプレーなど, 互いに点を取り合う展開となる。大きく点差が詰まることにはならず, 65-54 で湯沢南が追いつがる秋田東を振り切り, 10 年ぶり 2 回目の優勝を飾った。